

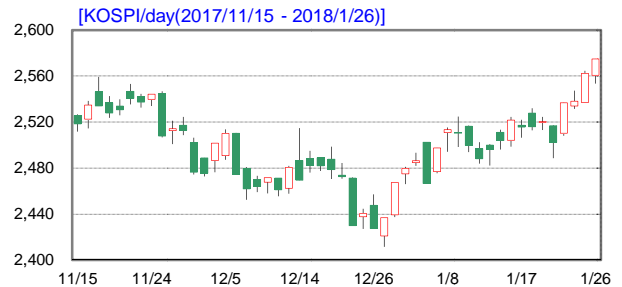


【韓国】 総合指数は週間で 2.2% 高と続伸、過去最高値を更新 ハイテク株が主導

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.2% 高と続伸。週明け 22 日は米 MSCI が韓国政府の税制改革に懸念を示したことをきっかけに反落してスタートしたものの、23-26 日は 4 連騰した。世界的な株高を受けてリスクオンの動きが優勢。指数は次第に上げ幅を広げ、25 日に 17 年 11 月 3 日以来、約 2 カ月半ぶりに過去最高値を更新。26 日は最高値を再び更新して週の取引を終えた。SK ハイニックスの 17 年 12 月本決算の大幅最終増益などを手掛かりに、先週に続きハイテク主力株が上昇を主導。韓国の 17 年実質国内総生産（GDP、速報値）成長率が 3 年ぶりに 3% に乗せたことも市場で好感された。今週は景況判断や消費、貿易統計など経済指標の発表が続く。利益確定売りが出やすい状況にはあるが、業績期待が引き続き相場を支えるか。

▼指数チャート

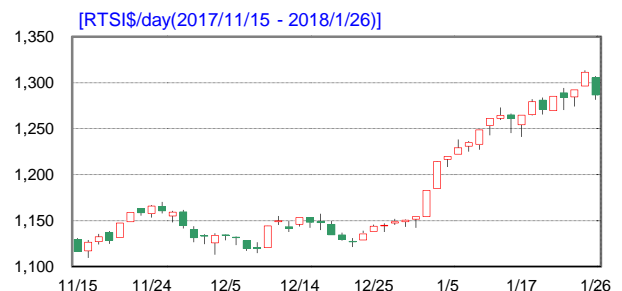


【ロシア】 RTS 指数は週間で 1.2% 高と 5 週続伸、今週は米国の対ロ制裁を懸念

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で 1.2% 高と 5 週続伸。原油高や良好な経済指標に支えられ、14 年 7 月以来の 1300 ドル台を回復した。指数は週明け寄り付きはマイナス圏だったものの、その後は上値を伸ばした。17 年 12 月の鉱工業生産が前年同月比 1.5% 減と 11 月の 3.6% 減から改善したことに加え、IMF が発表した世界経済見通しでロシア経済は今年が 1.7%、19 年が 1.5% とプラス成長になると見込まれたことも支援材料となり、25 日には約 4 年半ぶりに 1300 ドル台に上昇した。ただ、米ロ関係の悪化懸念や小売大手の弱い決算が嫌気され、26 日には上げ幅が縮小した。小売大手マグニトが 10% 超の大幅下落となったことなどを受け、指数は前日比 1.9% 安の 1286.70 ドルで取引を終えた。今週は米国の対ロ制裁拡大懸念で弱含むか。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は週間で 5.0% 高と 6 週続伸、今週は短期的調整に要警戒

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 5.0% 高と大幅に 6 週続伸。取引所のシステム障害により 23、24 日が臨時休場となり 3 営業日の取引だったが、07 年 5 月以来の高値を更新した。金融や公益のセクターで好決算を発表した主力銘柄が多く、18 年通期も多くの銘柄が好調な見通しを示したことから、前週まで続いていた主力銘柄への資金流入が継続。システム障害による 2 営業日連続臨時休場はマイナス材料にはならなかった。週明け 22 日はプラスで寄り付いた後に 1088.05 ポイントまで上昇し、4 週連続で 07 年以来の高値を更新した。25 日は寄り付きから 1% 超上昇し、1100 ポイントを突破。26 日はさらに一段高となり、1123.83 ポイントまで上昇して 1115.64 ポイントで取引を終えた。今週は堅調継続を予想するも、短期的調整に要警戒。

▼指数チャート



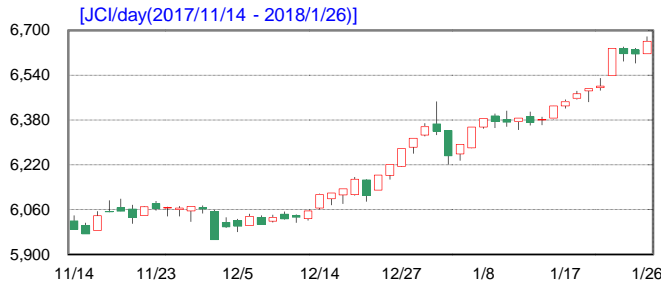


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.6%高、今週は日経 PMI の 50 ポイント回復に期待

ジャカルタ総合指数は週間で 2.6%高と 3 週続伸。週前半の急上昇が奏功した。22 日はエネルギー株が買われて指数は終値で 6500 ポイントに到達。23 日は前日の NY ダウが米政府機関の一部閉鎖が解除される見通しとなったことを受けて上昇した流れを引き継ぎ、前日比 2.1%高と 6 営業日連続で過去最高値を更新した。その後は指数ウエートの大きい国営通信テレコム・インドネシアの値動きが指数を左右し、24 日に反落したが 26 日は 3 日ぶりに反発。終値の最高値を更新して引けた。今週は 1 日に 1 月の日経 PMI と CPI が発表される予定で、日経 PMI が節目の 50 ポイントを回復するかが焦点になる。

▼指数チャート

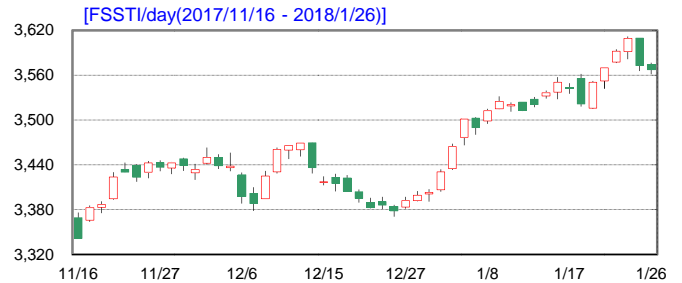


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.5%高、24 日に 07 年 11 月以来の高値更新

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.5%高と 5 週続伸。週半ばまでの上昇が指数を支えた。23 日は香港市場でハンセン指数が過去最高値を更新したことに連動して上昇。17 年 12 月の CPI 上昇率は前年同月比 0.4%と市場予想をやや下回ったが影響は軽微だった。24 日は通信株が指数上昇をけん引し、終値ベースで 07 年 11 月以来の高値を更新したが、25 日は金融株と工業関連株が売られて前日比 1.0%安と 5 営業日ぶりに反落。26 日は 12 月の鉱工業生産が前年同月比 3.9%減と 1 年 5 カ月ぶりにマイナスに転落したことが嫌気され、続落して取引を終えた。今週は 2 日に 1 月の製造業 PMI が発表される予定。

▼指数チャート

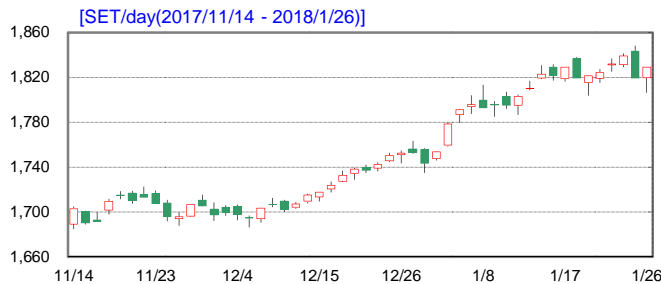


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.4%高、今週は 1 月の日経 PMI と CPI 発表

SET 指数は週間で 0.4%高と 9 週続伸。おおむね堅調に推移した。週初めの 22 日は 17 年 12 月の輸出（通関ベース）が前年同月比 8.6%増と市場予想を下回ったものの影響は少なく、指数は上昇。23 日に終値で 4 営業日ぶりに過去最高値を更新すると、24 日はさらに上値を広げたが、25 日は反動で売られて 5 営業日ぶりに反落。ただ、26 日には買い戻され反発して取引を終えた。今週は 31 日に 17 年 12 月の鉱工業生産、1 日に 1 月の日経 PMI と CPI が発表される予定で、日経 PMI が 3 カ月連続で 50 ポイント台を維持すれば好材料。外部要因では、31 日に発表される中国の 1 月の製造業 PMI に注目が集まりそうだ。

▼指数チャート

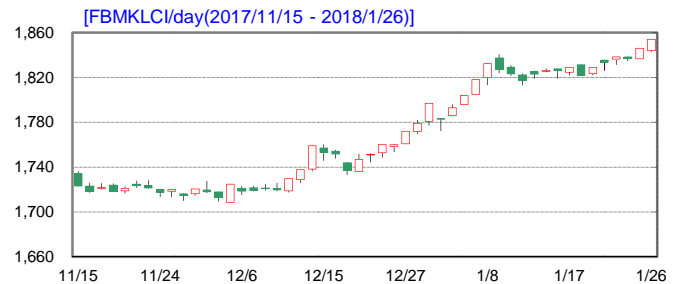


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.4%高、中央銀行が 0.25 ポイントの利上げを決定

クアラルンプール総合指数は週間で 1.4%高と 9 週続伸。好地合の中、じりじりと上値を広げた。週前半は前週末の勢いに乗り 23 日まで 3 営業日続伸したが、24 日は中央銀行の金融政策決定会合を翌日に控えた様子見で小幅に反落。一方、25 日は中銀が政策金利を 0.25 ポイント引き上げ 3.25%に決定した効果で金融株が買われたことに加え、原油高や為替相場でのリンギ高も指数上昇に貢献した。26 日は利上げの余波と外国人投資家による資金流入で続伸。今週は 2 日に 1 月の日経 PMI が発表される予定で、景況感の分岐点となる 50 ポイントを 2 カ月ぶりに回復するかが焦点。31 日はタイプーサムの祝日で休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。